

令和7年度 全国学力・学習状況調査



北九州市環境マスコットキャラクター
ていたん & ブラックていたん
©ていたん & ブラックていたん、北九州市

北九州市教育委員会

目 次

令和7年度 全国学力・学習状況調査 報告書

1 学力状況調査結果

- 令和7年度全国学力・学習状況調査結果（概況） 3
- 学力調査結果（経年推移）※各教科 4

2 各教科の分析

- (1) 小学校国語 6
- (2) 小学校算数 8
- (3) 小学校理科 10
- (4) 中学校国語 12
- (5) 中学校数学 14
- (6) 中学校理科 16

3 学習状況調査結果・分析

- (1) 学習状況調査結果 19
- (2) 児童生徒質問調査の回答結果の経年推移
 - 学びの育ち 21
 - 心の育ち 22

4 今後の取組

- 今後の取組 24

1 学力状況調査結果



©ていたん&ブラックていたん、北九州市

令和7年度全国学力・学習状況調査結果(概況)

1 実施学年・調査内容

- ◇ 実施学年 市立小学校(126校)・関係特別支援学校(2校) 第6学年
市立中学校(63校)・関係特別支援学校(1校) 第3学年
- ◇ 調査内容 ① 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)
② 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

2 調査集計者数 児童数 6,892人 生徒数 6,586人 ※各校種の最小値

3 調 査 日 令和7年4月17日(木) ※ オンライン調査については文科省が指定した日程

主な結果

令和7年度	小学校 国語			小学校 算数			小学校 理科		
	正答数	正答率	割合	正答数	正答率	割合	正答数	正答率	割合
本市平均	8.9 / 14 問	64%	96%	8.6 / 16 問	54%	93%	9.1 / 17 問	53%	93%
全国平均	9.4 / 14 問	67%		9.3 / 16 問	58%		9.7 / 17 問	57%	

令和7年度	中学校 国語			中学校 数学			中学校 理科	
	正答数	正答率	割合	正答数	正答率	割合	平均IRTスコア	割合
本市平均	7.4 / 14 問	53%	98%	6.7 / 15 問	45%	94%	492	98%
全国平均	7.6 / 14 問	54%		7.2 / 15 問	48%		503	

「割合」…全国平均正答率に対する本市の平均正答率の割合

【分析結果1(国語)】

- 「話すこと・聞くこと」の「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」問題に改善がみられる。
(小学校 全国比と同等)
- 記述式の問題に課題がみられる。(小学校全国比 R6: +2.0pt→R7: -4.1pt)
(小学校:「複数の資料を読み、考えたことをまとめる問題」全国比: -3.8pt)
(中学校:「手紙を推敲する問題」全国比 R7: -1.2pt)

【分析結果2(算数・数学)】

- 「データの活用」領域において、正答率の全国比に一部改善がみられる。(小学校:算数 昨年度比+0.8pt)
- 「思考・判断・表現」の問題に課題がみられる。
(小学校:算数「分数の計算の仕方について統合的・発展的に考察する問題」正答率:20.8%、無解答率:16.9%)
(中学校:数学「平行四辺形について証明を振り返り、統合的・発展的に考察する問題」全国比-4.3pt)

【分析結果3(理科)】

- 生命領域やエネルギー領域での概念的知識と実生活のつながりを問われる問題に改善が見られる。
(中学校:「呼吸を行う生物を選ぶ問題」全国比+2.1pt、「気圧に関する事象を問う問題」に全国比+2.8pt)
- 実験結果や、図、動画などの視覚情報を根拠に思考し、説明する問題に課題がみられる。
(小学校:「水がしみ込む理由を記述する問題」全国比-5.8pt、中学校:「化学変化をモデルで再現する問題」全国比-3.3pt)

【分析結果3(児童生徒質問調査)】

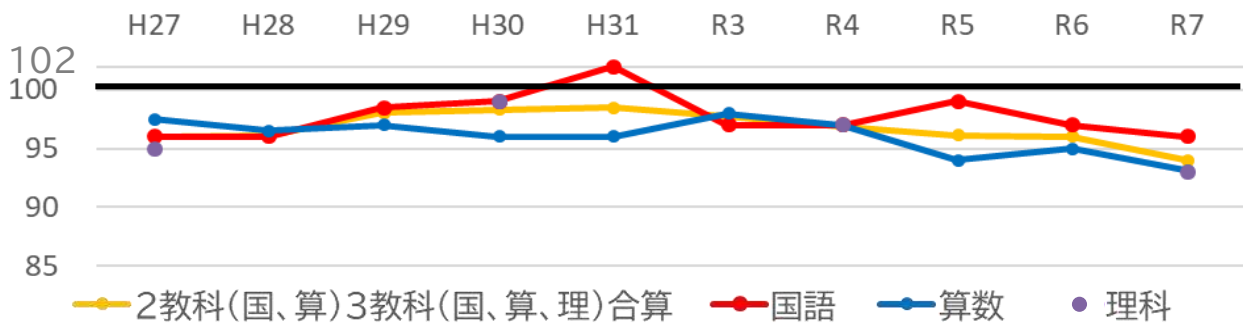
- 「自分にはよいところがある」「学校に行くのは楽しい」が、小・中ともに前年度を上回っている。
(「自分にはよいところがある」小学校前年度比+3.5pt、中学校前年度比+3.0pt)
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」について小・中ともに前年度を上回っている。(小学校前年度比+6.5pt、中学校前年度比+7.8pt)
- 「5年生(1、2年生)までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」について、小・中ともに前年度を上回っている。(小学校前年度比+2.1pt、中学校前年度比+3.1pt)

【考察及び今後の方向性】

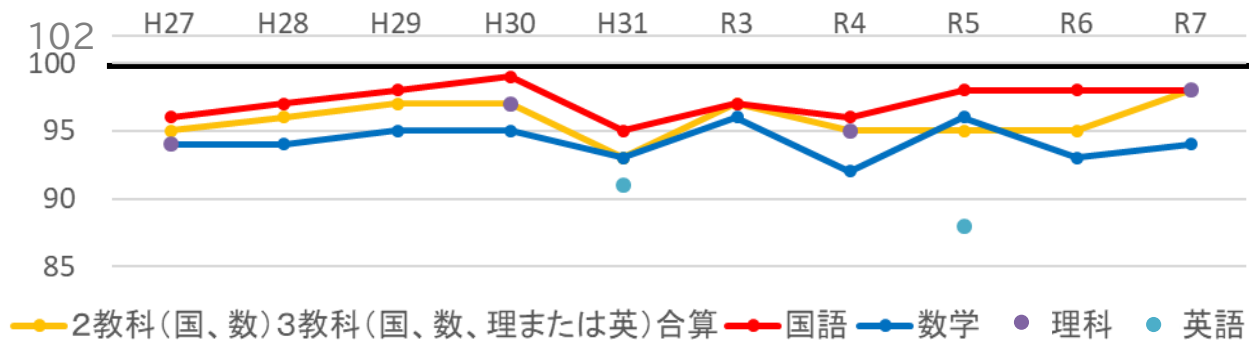
- 「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善をさらに推進していく。
 - ・ 学校の自律・自走に向けた組織的な取組の推進(マネジメント支援訪問、学校力向上支援訪問 等)
 - ・ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業への改善・充実に向けた「学びの転換」の推進
- PC・タブレットなどのICT機器活用の質的な向上を目指す。
 - ・ 新しいタブレット端末(Chromebook)の活用研修の実施、リーディングスクールの公開授業

■ 全国平均正答率に対する割合(平成27年度～令和7年度)

小学校(国語、算数、理科(H27、30、R4、R7のみ) 合算)

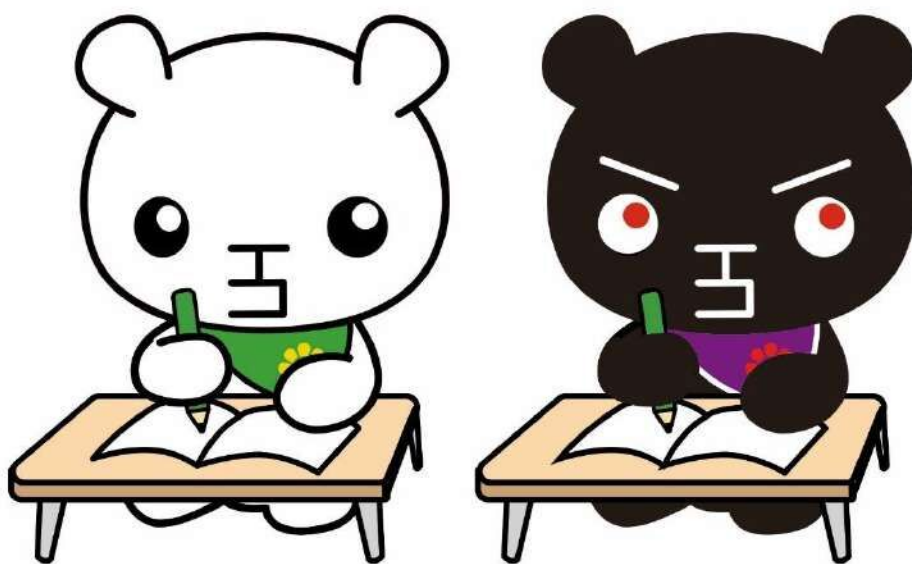


中学校(国語、数学、理科(H27、30、R4、R7のみ)、英語(H31、R5のみ)合算)



小学校		国語	算数	理科	合計	中学校		国語	数学	理科	英語	合計
R4 年度	本市	64	61	61	186	R4 年度	本市	66	47	47		160
	全国	66	63	63	192		全国	69	51	49		169
	対全国比	97%	97%	97%	97%		対全国比	96%	92%	95%		95%
R5 年度	本市	66	59		125	R5 年度	本市	69	49		40	158
	全国	67	63		130		全国	70	51		45	166
	対全国比	99%	94%		96%		対全国比	98%	96%		88%	95%
R6 年度	本市	66	60		126	R6 年度	本市	57	49			106
	全国	68	63		131		全国	58	53			111
	対全国比	97%	95%		96%		対全国比	98%	93%			95%
R7 年度	本市	64	54	53	171	R7 年度	本市	53	45	492		590
	全国	67	58	57	182		全国	54	48	503		605
	対全国比	96%	93%	93%	94%		対全国比	98%	94%	98%		98%

2 各教科の分析



©ていたん&ブラックていたん、北九州市

令和7年度 全国学力・学習状況調査 結果[小学校 国語]

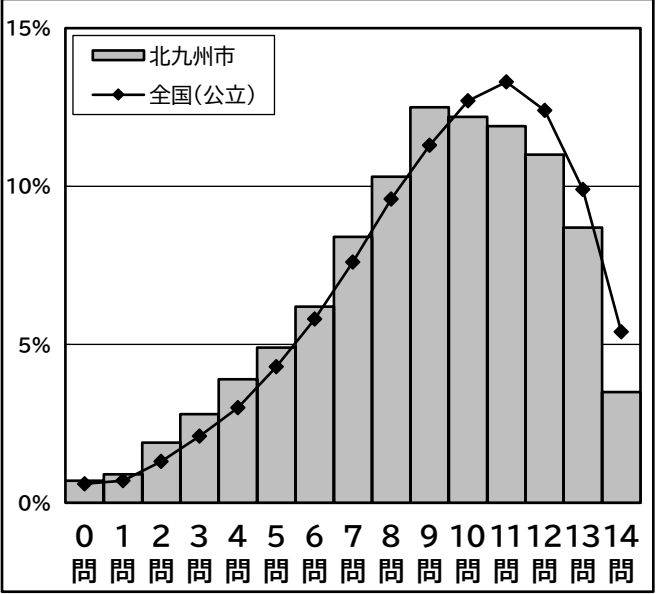
<集計値>

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	6,892	8.9 / 14	64	9.0	3.1
全国(公立)	936,137	9.4 / 14	66.8	10.0	3.0

<区分別平均正答率の状況>

分類		区分	対象 問題 数 (問)	平均正答率(%)	
				北九州市	全国 (公立)
学習 指導 要領 の 内容	知識 及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	73.1	76.9
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	60.6	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	78.7	81.2
	思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	3	63.3	66.3
		B 書くこと	3	66.5	69.5
		C 読むこと	4	54.3	57.5
評価の観点	知識・技能		4	71.4	74.5
	思考・判断・表現		10	60.7	63.8
問題形式	選択式		9	62.1	64.7
	短答式		3	74.8	78.5
	記述式		2	54.7	58.8

<正答数分布グラフ>



<結果>

- ・ 正答率の全国比は、昨年度より下がって96%であった。(R6:97%)
- ・ 「知識・技能」(言葉の特徴や使い方に関する事項)の正答率の全国比が下がっている。(R6:-2.7pt、R7:-3.8pt)
- ・ 「思考・判断・表現」において、全国比との差が開いている。(R6:-1.0pt、R7:-3.1pt)
- ・ 問題形式別の「記述式」の正答率が下がっている。(R6:+2.0pt、R7:-4.1pt)

<課題の見られた問題(全国平均との差が大きかった問題)>

番号	出題の趣旨	正答率		
		北九州市	全国	差
1三(1)	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる。	66.9%	71.8%	-4.9pt
2四イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。	67.4%	72.1%	-4.7pt
2三	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。	56.9%	61.3%	-4.4pt
3三(2)	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。	52.5%	56.3%	-3.8pt

(1)小学校国語

<特に課題の見られた問題>

三 小森さんたちは、バスの運転士の岡さんにインタビューをすることにしました。次の「インタビューの様子の一部」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

「インタビューの様子の一部」

小森さん	私たちは、働くことについて考えるために、興味のある仕事について調べています。今日は、岡さんの仕事についてうかがいます。どうぞよろしくお願いします。
岡さん	どうぞよろしく申し上げます。
小森さん	はじめに、バスの運転士として岡さんが大切にしていることを教えてください。
岡さん	バスはたくさんの人を乗せていますから、やはり、安全に目的地までお送りすることを大切にしています。
小森さん	安全に運転することは大事なことです。安全に運転するために、例えばどのようなことを心がけているのですか。
岡さん	道が混んでいると時刻どおりに運行できないこともあります。あわててしまうと、大きな事故につながりかねないので、落ちついて運転するようにしています。それに、バスの安全を守っているのは運転士だけではないんですよ。
小森さん	えっ、そうなんですか。運転士のほかにどんな人がいるのですか。
岡さん	出発する前に、自分でもバスの点検をしますが、整備士も定期点検をしています。そのほかに、私たち運転士の健康状態を確認するなど、安全な運行を管理する人もいます。
小森さん	なるほど。たくさんの方が、乗客の安全を支えてくださっているんですね。私たちは時間を守ることも大切だと思いましたが、私たちが思っていた以上に安全を第一に考えてくださっていることが分かりました。
清川さん	バスの安全な運行のためには、大変なこともあると思いますが、いかがですか。

～（インタビューが続く）～

(1) 【インタビューの様子の一部】の小森さんが一部アのように発言した目的として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- ① 自分が知りたいことをより具体的に知るため。
- 2 質問する理由を相手に正しく伝えるため。
- 3 自分の理解が正しいかどうかを相手に確かめるため。
- 4 相手が伝えたいことの中心を明確にするため。

解答類型	1	2	3	4
北九州市	66.9	9.1	6.9	16.3
全国	71.8	7.5	5.7	14.3

<誤答分析>

- ・ 【解答類型4】を選んだ児童は、相手が伝えたいことの“中心”という言葉の意味を捉え違えていると考えられる。話の「中心」と「具体」の関係が理解できていないために起こった誤答であると考えられる。

<今後の授業改善の方向性・授業アイデア例>

- 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに焦点を当てた指導の充実が必要である。
- インタビューをする際には、目的や意図に沿って、自分がどのような情報を求めているのか、聞いた内容をどのように生かそうとしているのか、そのためにこういった情報を相手から引き出そうとしているのかなどを明確にすることが重要である。

(1)小学校算数

令和7年度 全国学力・学習状況調査 結果[小学校 算数]

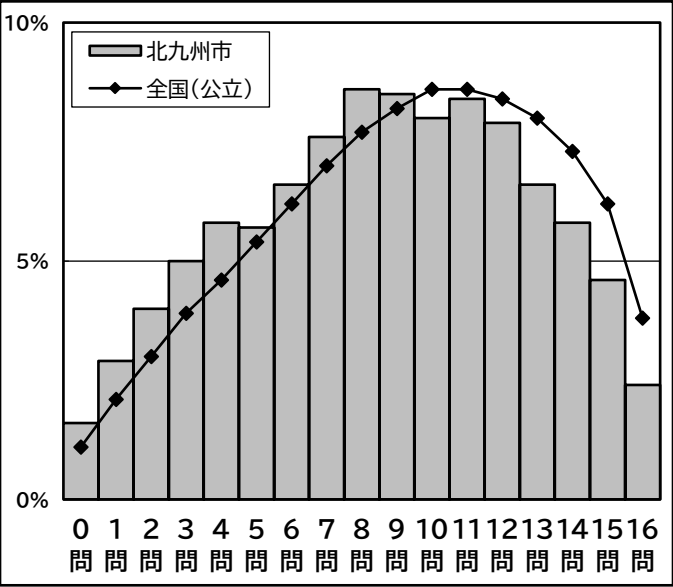
<集計値>

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	6,896	8.6 / 16	54	9.0	4.1
全国(公立)	936,399	9.3 / 16	58.0	10.0	4.0

<区分別平均正答率の状況>

<正答数分布グラフ>

分類	区分	対象 問題 数(問)	平均正答率(%)	
			北九州市	全国 (公立)
学習指導 要領の 内容	A 数と計算	8	58.1	62.3
	B 図形	4	51.9	56.2
	C 測定	2	52.0	54.8
	C 変化と関係	3	53.8	57.5
	D データの活用	5	58.2	62.6
評価の観点	知識・技能	9	60.3	65.5
	思考・判断・表現	7	45.0	48.3
問題形式	選択式	6	62.8	67.2
	短答式	6	59.0	64.0
	記述式	4	31.8	34.9



<結果>

- ・「データの活用」領域において、正答率の全国比が昨年度より上がった。
(R6: -5.2pt、R7: -4.4pt)
- ・「数と計算」領域の分数の加法において課題が見られた。特に、共通する単位分数の幾つ分について数や言葉を用いて記述する問題では、正答率の低さ、無解答率の高さが見られた。
(正答率:20.8%、無解答率:16.9%)

<課題の見られた問題(全国平均との差が大きかった問題)>

番号	出題の趣旨	正答率		
		北九州市	全国	差
3(3)	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる。	24.2%	35.0%	-10.8pt
1(3)	簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる。	63.4%	71.6%	-8.2pt
2(1)	平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる。	51.5%	58.3%	-6.8pt
4(4)	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる。	36.1%	40.9%	-4.8pt

(1)小学校算数

<特に課題の見られた問題> 正答率が一番低く、無解答率が高かった問題

- 3 (2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまとめています。



みおり

$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 2 個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 1 個分です。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、 $2 + 1$ を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



ひろと

$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分です。

もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

$\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ のもとにする数を同じ数にするとき、その数は $\frac{1}{12}$ になります。 $\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{12}$ の 9 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{12}$ の 8 個分です。

解答類型	1	2	3	4	5	6	7	9 9	無解答
北九州市	20.8	0.2	0.5	5.7	1.0	24.9	5.8	0.7	16.9
全国	23.0	0.3	0.5	6.1	1.0	26.2	4.4	0.5	15.7

<誤答分析>

- ・【解答類型6】は、2つの分数の分母が異なるため、計算する際の通分の必要性は感じている。しかし、加数と被加数の共通する単位分数やその単位分数の幾つ分かを表す数や言葉を記述できていないと考えられる。

<今後の授業改善の方向性・授業アイデア例>

- 形式的に分母を揃えて計算するということに終始するのではなく、共通の単位分数の幾つ分とみることで既習事項(整数や小数、同分母分数の計算方法)に帰着できることに気付くことができるようにすることが重要である。
- 児童一人一人に式と図(面積図、テープ図、数直線図等)と言葉を関連付けて説明させることで、数学的な考え方を育成していくことが大切である。

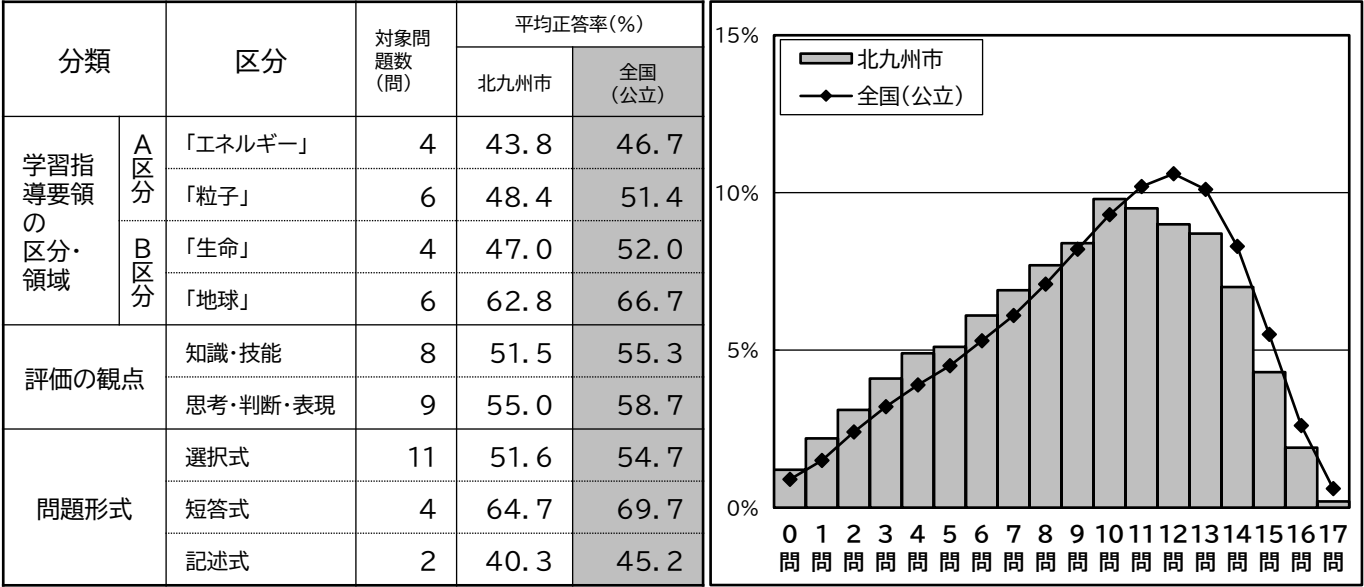
令和7年度 全国学力・学習状況調査 結果[小学校 理科]

<集計値>

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	6,904	9.1 / 17	53	10.0	3.9
全国(公立)	936,576	9.7 / 17	57.1	10.0	3.8

<区分別平均正答率の状況>

<正答数分布グラフ>



<結果>

- ・ 正答率の全国比は下がっている。(H30:99%、R4:97%、R7:93%)
- ・ 「生命」を柱とする領域では、全国平均との差が広がっている。(R4:－1.5pt、R7:－5.0pt)
- ・ 知識・技能の正答率の全国比は下がっている。(R4:－2.5pt、R7:－3.8pt)
- ・ 記述式の正答率の全国平均との差が広がっている。(R4:－0.7pt、R7:－5.0pt)

<課題の見られた問題(全国平均との差が大きかった問題)>

番号	出題の趣旨	正答率		
		北九州市	全国	差
3(1)	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる。	63.6%	70.7%	－7.1pt
3(2)	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる。	39.3%	45.6%	－6.3pt
1(2)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる。	54.7%	60.5%	－5.8pt
4(2) 工オ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる。	51.9%	57.5%	－5.6pt

(3)小学校理科

<特に課題の見られた問題>

3

たかひろさんとてるみさんは、ヘチマの花のつくりについて調べています。

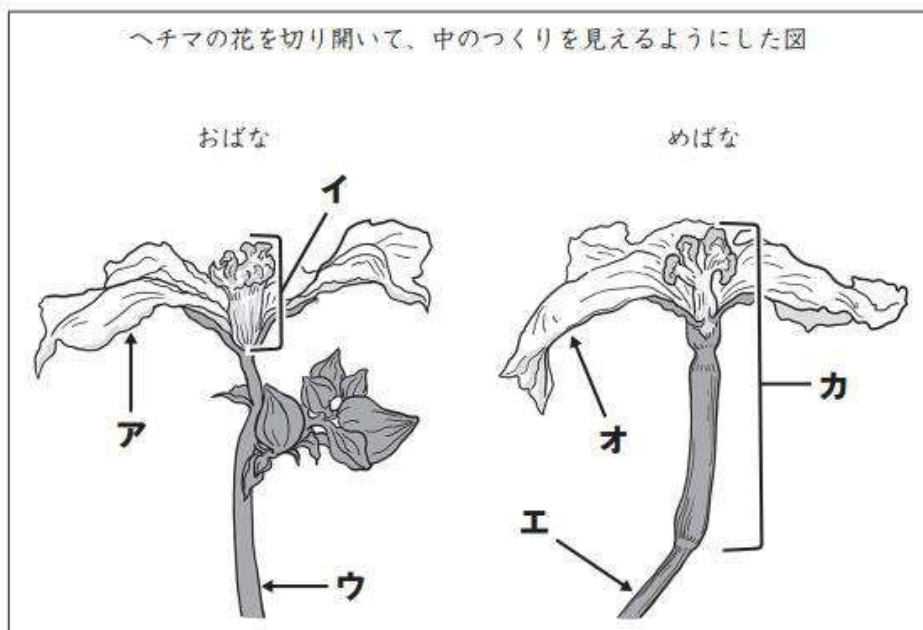


ヘチマのおばなとめばなは、どんなつくりになっているのかな。

(1) ヘチマのおしべとめしべを下の図の **ア** から **カ** の中からそれぞれ1つ選んで、その記号を書きましょう。

また、「花粉がめしべの先につく」ことを表すことばを書きましょう。

ヘチマの花を切り開いて、中のつくりを見えるようにした図



【解答】

おしべ・・・**イ**

めしべ・・・**カ**

「花粉がめしべの先につく」ことを
・・・**受粉**

解答類型	1	2	3	4	5	6	7	8
北九州市	63.6	2.2	0.5	1.9	20.7	3.2	1.1	5.1
全国	70.7	1.2	0.8	1.8	16.6	2.1	0.9	4.1

<誤答分析>

- ・【解答類型5(～8)】から、アサガオでおしべとめしべの働きを学習し、その位置や形の違いを理解している。そこから、ヘチマではおしべとめしべが別の花にあることを理解しているが、花粉がめしべの先につくことが「受粉」とであるという概念を十分に獲得していないと考えられる。

<今後の授業改善の方向性・授業アイデア例>

- 単元で学んだ知識を他の学習や生活の場面でも活用できるように理解することが大切である。観察や実験したことについて、図に整理したり、関連する用語をまとめたりしながら、知識が身に付くように意識して授業を改善することが必要である。
- ひとつの観察や実験をした対象から得た知識を活用して、他の植物と比較ながら観察をしたり、既習内容を生命を柱とする領域で振り返ったりしながら、概念のつながりで理解することができるようにする。

令和7年度 全国学力・学習状況調査 結果[中学校 国語]

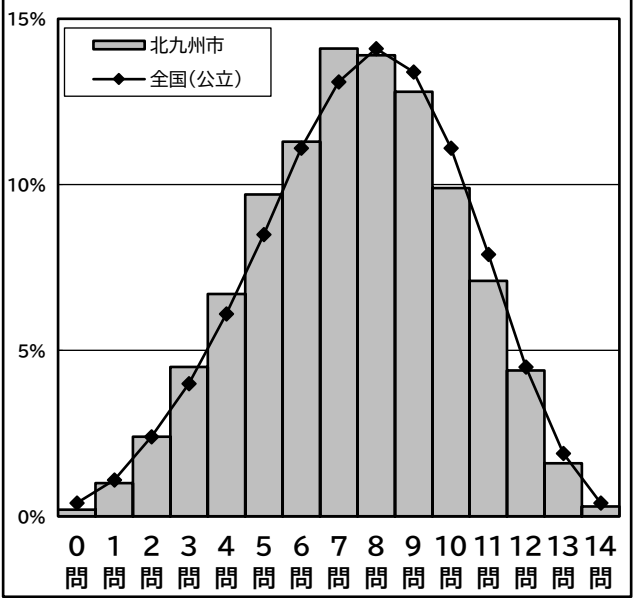
<集計値>

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	6,594	7.4 / 14	53	8.0	2.7
全国(公立)	870,560	7.6 / 14	54.3	8.0	2.7

<区分別平均正答率の状況>

分類		区分	対象 問題 数 (問)	平均正答率(%)	
				北九州市	全国 (公立)
学習 指導 要領 の 内容	知識 及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	46.4	48.1
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	4	52.5	53.2
		B 書くこと	5	51.2	52.8
		C 読むこと	3	61.5	62.3
評価の観点	知識・技能		2	46.4	48.1
	思考・判断・表現		12	54.2	55.3
問題形式	選択式		8	63.0	63.9
	短答式		2	71.3	73.6
	記述式		4	24.1	25.3

<正答数分布グラフ>



<結果>

- ・「知識・技能」の正答率の全国比が下がっている。(R6: -1.0pt、R7: -1.7pt)
- ・「思考・判断・表現」の「書くこと」の正答率が下がっている。(R6: -0.9pt、R7: -1.6pt)
- ・問題形式別の「短答式」の正答率が特に下がっている。(R6: -1.3pt、R7: -2.3pt)

<課題の見られた問題(全国平均との差が大きかった問題)>

番号	出題の趣旨	正答率		
		北九州市	全国	差
4ー	読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。	52.6%	57.3%	-4.7pt
1ー	文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる。	32.5%	35.2%	-2.7pt
4二	読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。	27.9%	30.1%	-2.2pt
1三	書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる。	61.2%	63.3%	-2.1pt

(4)中学校国語

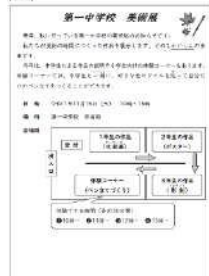
<特に課題の見られた問題>


- 第一中学校では、毎年、美術の時間につくった作品を展示する美術展を行っています。今年は、昨年の美術展に来場した小学生の感想をもとに、内容を工夫して開催します。実行委員の中井さんは、地域の小学校6年生に向けて、来場を促すためのちらしを作成することになりました。次は、中井さんが参考にした【第一中学校のウェブページ上のお知らせ】と、文書作成ソフトを用いて作成している【ちらし】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【第一中学校のウェブページ上のお知らせ】

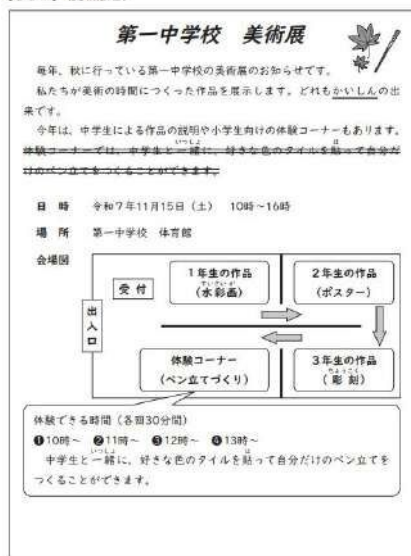


【ちらし】



- 中井さんは、【ちらし】(更新版①)のように、 線の部分を削除して  の中に書き加えました。その意図を説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までのの中から1つ選びなさい。

【ちらし】(更新版①)



- 具体例を示したあとに要点を示すことで、中心となる情報に対する読み手の理解を深めようとした。
- 伝えるべき事柄に見出しを付けることで、読み手に速やかに情報を伝えようとした。
- 情報を示す位置を整理することで、関連する情報を読み手がまとめて得られるようにした。
- 時間の流れに沿って情報を示すことで、読み手が必要とする情報を見付けやすくした。

解答類型	1	2	3	4
北九州市	6.5	14.2	<u>61.2</u>	17.7
全国	6.2	14.4	<u>63.3</u>	15.6

<誤答分析>

- 書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることに課題がある。特に解答類型4については、吹き出しの中に書かれている①～④の開始時刻を、時間の流れに沿って情報を示したものであると誤って捉えたものと考えられる。

<今後の授業改善の方向性・授業アイデア例>

- 書く内容の中心が明確になるように内容のまとまりを意識して文書の構成や展開を考える授業が求められる。
- 案内文に必要な項目を立て、それぞれの情報をどの項目に入れ、どのような順序で示すかなど、意図を明確にして文章を構成や展開を考える学習が必要である。
- 集めた材料を比較、分類、関係付けなどして整理し、情報と情報との関係を見いだす授業が必要である。

令和7年度 全国学力・学習状況調査 結果[中学校 数学]

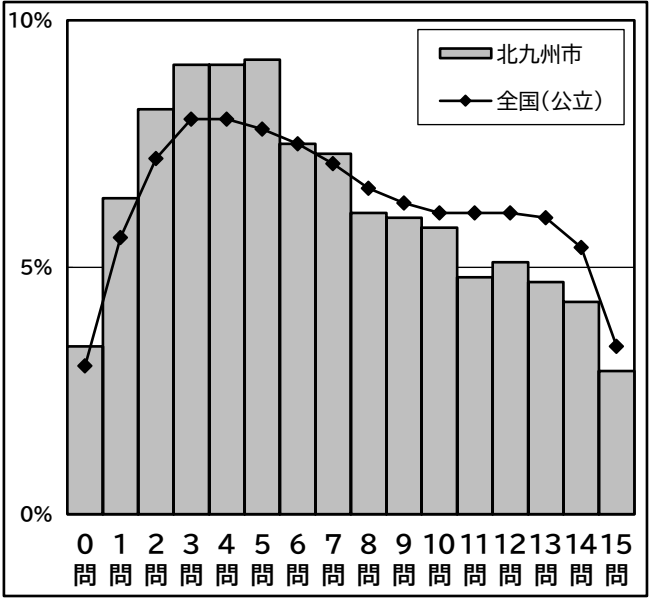
<集計値>

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	6,603	6.7 / 15	45	6.0	4.1
全国(公立)	871,097	7.2 / 15	48.3	7.0	4.2

<区分別平均正答率の状況>

分類	区分	対象 問題 数 (問)	平均正答率(%)	
			北九州市	全国 (公立)
学習指導 要領の 内容	A 数と式	5	39.6	43.5
	B 図形	4	42.2	46.5
	C 関数	3	44.7	48.2
	D データの活用	3	56.2	58.6
評価の観点	知識・技能	9	50.7	54.4
	思考・判断・表現	6	35.5	39.1
問題形式	選択式	3	49.9	54.0
	短答式	7	48.0	52.0
	記述式	5	36.7	39.6

<正答数分布グラフ>



<結果>

- ・ 正答率の全国比は、94%であった。(R5:96%、R6:93%)
- ・ 「知識・技能」に関する問題の正答率の全国比は下がっている。
(R6:－3.1pt、R7:－3.7pt)
- ・ 「思・判・表」に関する問題の正答率全国比は下がっている。(R6:－1.7pt、R7:－3.6pt)
- ・ 領域別では、図形領域が全国比－4.3ptで差が最も大きい。

<課題の見られた問題(全国平均との差が大きかった問題)>

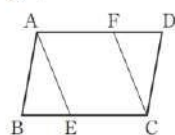
番号	出題の趣旨	正答率		
		北九州市	全国	差
9(2)	統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる。	29.5%	36.3%	－6.8pt
5	相対度数の意味を理解しているかどうかをみる。	36.1%	42.5%	－6.4pt
1	素数の意味を理解しているかどうかをみる。	25.7%	31.8%	－6.1pt
4	一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかをみる。	28.8%	34.7%	－5.9pt

<特に課題の見られた問題>

- 9 右の図1のように、平行四辺形ABCDの辺BC、DA上に、 $BE = DF$ となる点E、Fをそれぞれとります。

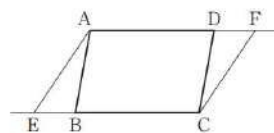
このとき、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、次のように証明できます。

図1



- (2) 次の図2のように、平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上に、 $BE = DF$ となる点E、Fをそれぞれとって、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、前ページの証明1の一部を書き直すことで証明できます。書き直すことが必要な部分を、下のアからオまでのの中から1つ選び、正しく書き直しなさい。

図2



証明1

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、

$$AD \parallel BC$$

よって、 $AF \parallel EC$ ……①

平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、

$$AD = BC$$

仮定より、

$$DF = BE$$

②、③より、

$$AD - DF = BC - BE$$

④より、

$$AF = EC$$

①、⑤より、

1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、四角形AECFは平行四辺形である。

ア

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、

$$AD \parallel BC$$

よって、 $AF \parallel EC$ ……①

イ

平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、

$$AD = BC$$

ウ

仮定より、

$$DF = BE$$

エ

②、③より、

$$AD - DF = BC - BE$$

オ

④より、

$$AF = EC$$

①、⑤より、

1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、四角形AECFは平行四辺形である。

②、③より、 $AD + DF = BC + BE$ ……④ と記述しているもの（ $AF = EC$ が導けるものを含む）

解答類型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	99	無解答
北九州市	29.5	12.8	6.4	0.0	5.3	3.1	7.7	9.9	6.3	11.8	0.7	6.6
全国	36.3	12.5	6.0	0.0	4.2	2.8	6.2	8.4	5.3	10.7	0.5	7.2

<誤答分析>

- ・【解答類型2】は、エを選んでいますが、正しい書き直しができている誤答。
- ・【解答類型10】は、エ以外を選び、書き直しが無解答であるもの。
- ・重要な数学的な見方・考え方の1つである「統合的・発展的に考える」力が、本市の生徒は足りていないため、正しい書き直しができなかったり無解答だったりと解答が多いと考えられる。

<今後の授業改善の方向性・授業アイデア例>

- 提示された証明の一部を書き直すことで、証明についての理解を深める。
条件を変える前と条件を変えた後の証明を比べて、関係が変わらず成り立つものに着目し、統合的・発展的に考察できるようにすることが大切である。
- 証明の解き方(書き方)だけを教える授業から脱却し、資質・能力の育成を明確にした数学的活動を生徒が主体的に行う授業が求められる。

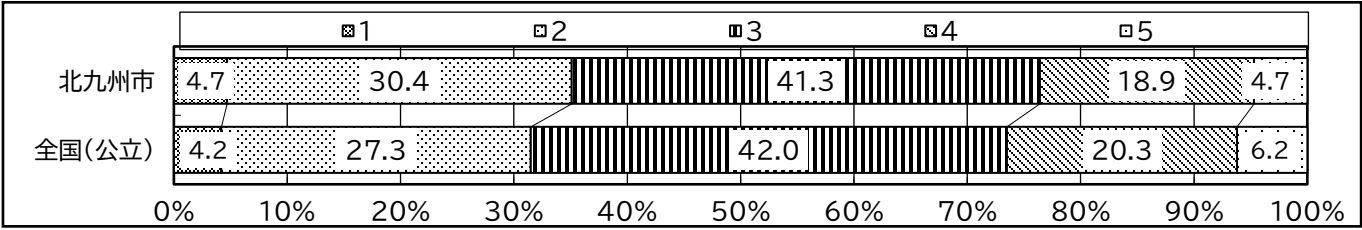
令和7年度 全国学力・学習状況調査 結果[中学校 理科]

<集計値>

	生徒数	平均IRT スコア	標準偏差	パーセンタイル値				
				10%	25%	50%	75%	90%
北九州市教育委員会	6,586	492	116.6	355	415	484	561	638
全国(公立)	864,634	503	124.0	361	422	495	572	652

- IRTとは
項目反応理論。生徒の正答・誤答が問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。
- IRTスコアとは
IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。(平均IRTスコアは算出された各生徒のスコアを足し合わせて平均を取ったものであるため、500に一致するとは限らない。)
- パーセンタイル値とは
データ全体を小さい順に並べたときに、ある値が下から数えて何%の位置に相当するかを表す数値。
- IRTバンドとは
IRTスコアを1～5段階に区切ったもの。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなる。

<IRTバンド分布比較>



<結果>

- ・ IRT平均スコアは全国より下回っている。
- ・ IRTバンド「2」の集計値が全国より上回っている。(全国比: +3.1pt)
- ・ 知識・技能に関する問題(全国比-1.7pt)と、思考力・判断力・表現力等に関する問題(全国比-1.5pt)の正答率について、全国平均との差は同程度であった。

<課題の見られた問題(全国平均との差が大きかった問題)>

番号	出題の趣旨	正答率		
		北九州市	全国	差
7 (1)	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかをみる。	28.3%	34.8%	-6.5pt
6 (1)	スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる。	60.6%	65.9%	-5.3pt
4 (1)	ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識および技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる。	46.8%	50.4%	-3.6pt
5 (2)	化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる。	32.3%	35.6%	-3.3pt

(6)中学校理科

<特に課題の見られた問題>

7

物質を体内に取り入れるための体の構造について探究しています。

(1)、(2)の各問いに答えなさい。

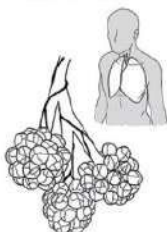


次の①から③には、物質を体内に取り入れるための体の構造として共通点があります。

①小腸の柔毛

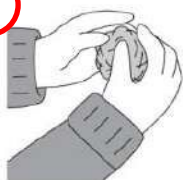
②肺の肺胞

③根毛



(1)

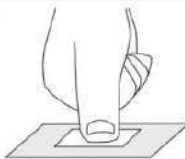
上の①から③の共通点と同じ内容を含むものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。



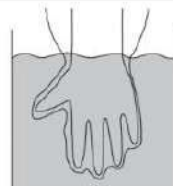
スチールワールを
はぐして火をつける



水を使って小さな
石などの汚れをとる



カバーガラスを軽く
押してから観察する



ビニール袋に手を入れ、
水の中に手を入れる

解答類型	1	2	3	4	無回答
北九州市	28.3	25.8	12.7	33.1	0.1
全国	34.8	25.5	12.3	27.3	0.2

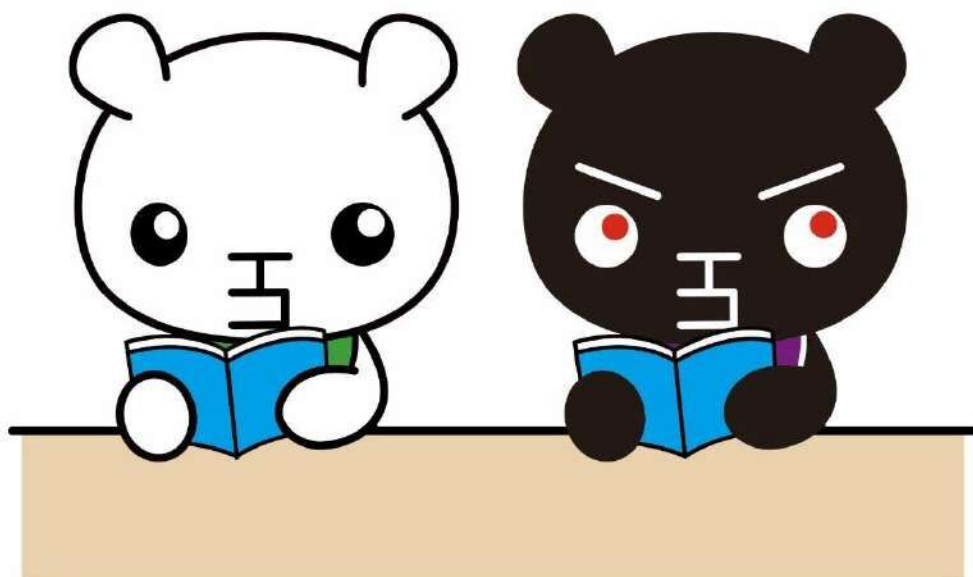
<誤答分析>

- ・ 生物の異なる器官に共通する本質的な構造的特徴を見抜き、それを異なる領域の事象に適用して、多面的かつ総合的に分析・解釈する能力が不足している。
- ・ 特に【解答類型4】を選択した生徒は、「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付けて互いの事象の共通点を捉えることに課題があると考えられる。

<今後の授業改善の方向性・授業アイデア例>

- 「共通性・多様性」の見方・考え方を働かせ、知識及び技能を相互に関連付けて多面的・総合的に分析・解釈する思考力、判断力、表現力等を育成が必要である。
- 単なる知識の暗記に留めず、多様な事象における本質的な構造や機能(例:効率を高めるための表面積の増大という共通点)を見出すよう促す。
- さらに、その特徴を日常生活や他の自然の事物現象に適用する学習場面を設定する。

3 学習状況調査 結果・分析



©ていたん&ブラックていたん、北九州市

(1)学習状況調査結果

児童生徒質問調査

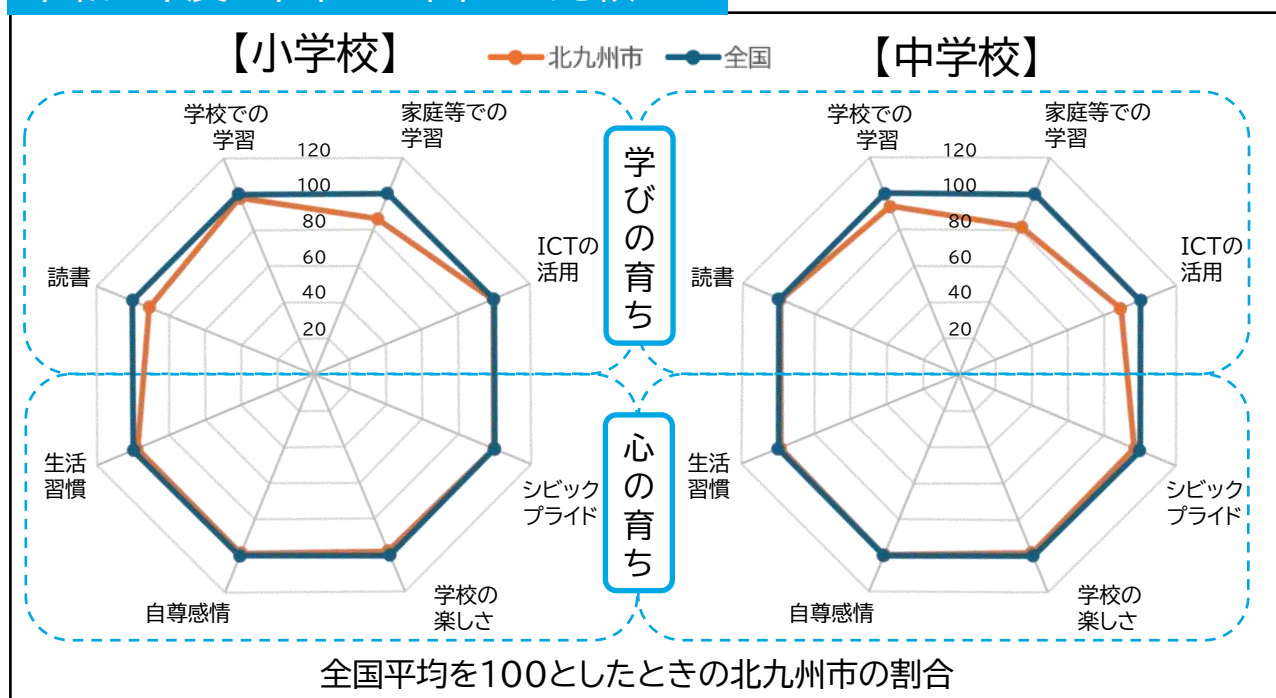
児童生徒質問調査から、「学びの育ち」と「心の育ち」に関連の深い質問事項を選び、子どもたちの質問に対する回答状況を数値化し、指標としています。

		質問項目
学びの育ち	学校での学習	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。
		授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。
		授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていますか。
		授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていますか。
		学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。
		学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。
		授業で学んだことをほかの学習で生かしていますか。
		総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。
	家庭等での学習	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含みます。)
		学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます。)
		土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます。)
	ICTの活用	5年生(1、2年生)までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。
		学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。
		学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。(遊びなどの目的に使う時間は除きます。)
	読書	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(電子書籍の読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)
		読書は好きですか。
心の育ち	学校の楽しさ	学校に行くのは楽しいと思いますか。
		友達関係に満足していますか。
	自尊感情	自分には、よいところがあると思いますか。
		先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
		人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
	生活習慣	朝食を毎日食べていますか。
		毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。
		毎日同じくらいの時刻に起きていますか。
	シビックプライド	今住んでいる地域の行事に参加していますか。
		地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。
		日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか。

(1)学習状況調査結果

～児童生徒質問調査より～

令和7年度 本市と全国との比較



「学級の育ち」について

〈家庭等での学習について〉

- 「授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」について、小6・中3ともに全国平均を大きく下回っている。
 - AI型学習アプリを活用し、個別最適な学びを提供する。また、学習習慣の形成に向けて、学校が家庭学習の重要性を周知し、家庭と連携した取組を進める。
 - 補充学習の充実を目指して、「学びチャレンジリーディングスクール」等で行っている補充学習の取組の実践報告会を開催し、各学校に周知する。

〈読書活動について〉

- 不読率(本を全く読まない児童生徒の割合)が年々上昇している。
 - 各学校で10分間読書やすきま読書などの取組を行ったり、国語科の学習内容と並行した読書活動を勧めたりするなど、身近に本がある環境を整え、気軽に本を読む習慣づくりを促す。

「心の育ち」について

〈自尊感情について〉

- 「自分にはよいところがあると思いますか」について、前年度より改善が見られる。
 - 今後も、互いのよさを見付け、交流する活動を仕組むなど、各校で創意工夫した取組を推進する必要がある。

〈学校の楽しさについて〉

- 「学校に行くのは楽しいですか」「友達関係について満足していますか」について、前年度より改善が見られる。
 - 引き続き、「子どもつながりプログラム」などを活用し、人間関係づくりに取り組むとともに、子どもが安心して学校に登校できるように子どもの居場所づくりに努めていく必要がある。

〈教師と児童生徒の関わりについて〉

- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」について、前年度より改善が見られる。
 - 日頃から児童生徒の様子を丁寧に見取る各校の取組を続ける。

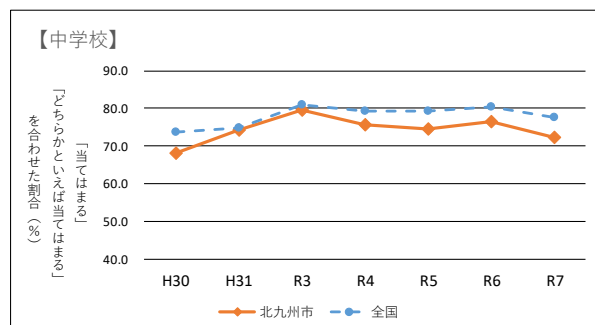
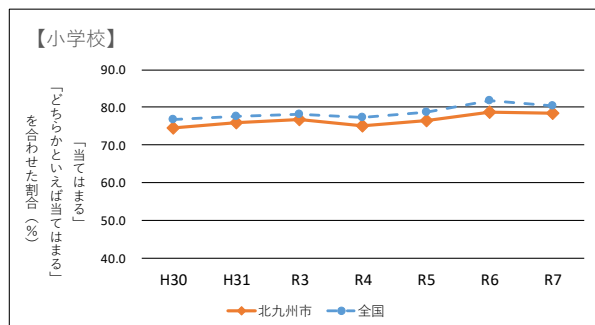
(2)児童生徒質問調査の回答結果の経年推移

学びの育ち

【質問】授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

	H30	H31	R3	R4	R5	R6	R7
北九州市	74.6	75.9	76.9	75.0	76.4	78.6	78.4
全国	76.7	77.7	78.2	77.3	78.8	81.9	80.3

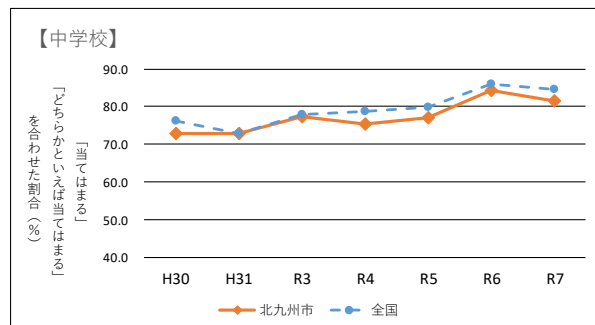
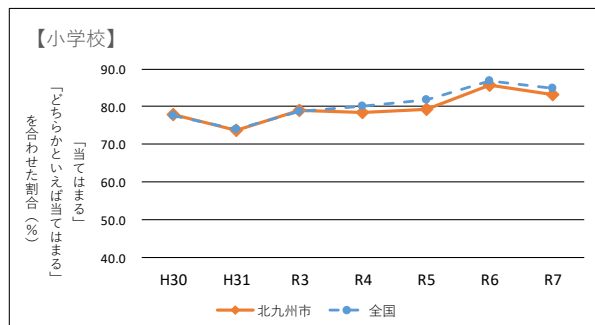
	H30	H31	R3	R4	R5	R6	R7
北九州市	68.0	74.3	79.6	75.7	74.4	76.5	72.2
全国	73.8	74.8	81.0	79.2	79.2	80.3	77.7



【質問】学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたり（新たな考え方に気付いたり）することができていますか。

	H30	H31	R3	R4	R5	R6	R7
北九州市	77.8	73.6	79.1	78.4	79.4	85.8	83.3
全国	77.7	74.1	78.8	80.1	81.8	86.8	84.9

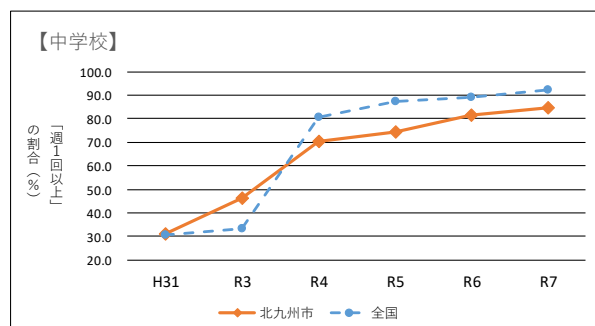
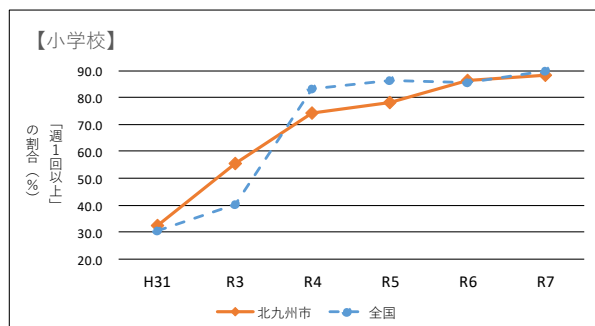
	H30	H31	R3	R4	R5	R6	R7
北九州市	72.9	72.9	77.3	75.4	77.1	84.3	81.6
全国	76.3	72.8	77.8	78.7	79.7	86.1	84.7



【質問】5年生までに〔1,2年生のときに〕受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。

	H31	R3	R4	R5	R6	R7
北九州市	32.4	55.6	74.4	78.3	86.3	88.4
全国	30.6	40.1	83.2	86.3	85.5	89.7

	H31	R3	R4	R5	R6	R7
北九州市	31.2	46.0	70.1	74.3	81.4	84.5
全国	30.6	33.4	80.6	87.5	89.0	92.2



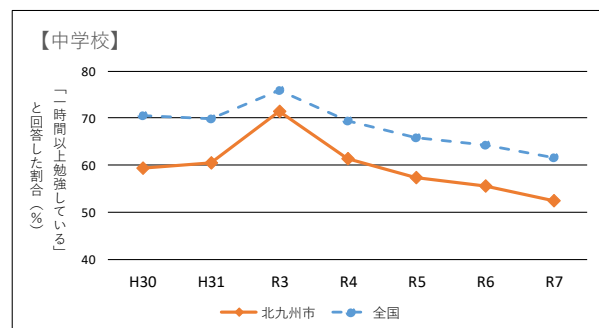
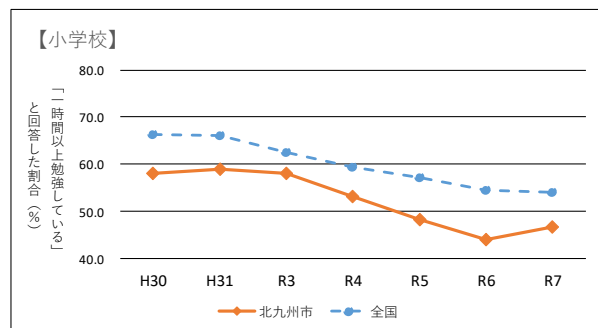
- 「主体的な学び」「対話的な学び」に関する項目では、昨年度より低下しているものの、経年で見ると増加傾向にある。
→引き続き、教師主導の授業観から子供主体の授業観への転換を続け、授業改善に取り組んでいく必要がある。
- ICT機器の活用率は年々増加傾向にある。
→今年度より導入された新しい端末(Chromebook)の授業内外での活用好事例を収集し、各学校に周知していく。

(2)児童生徒質問調査の回答結果の経年推移

【質問】学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）について、「1時間以上勉強している」と回答した割合

	H30	H31	R3	R4	R5	R6	R7
北九州市	58.1	59.0	58.0	53.2	48.2	44.0	46.7
全国	66.2	66.1	62.5	59.4	57.1	54.6	54.0

	H30	H31	R3	R4	R5	R6	R7
北九州市	59.3	60.4	71.4	61.4	57.3	55.6	52.4
全国	70.6	69.8	75.9	69.5	65.8	64.3	61.6



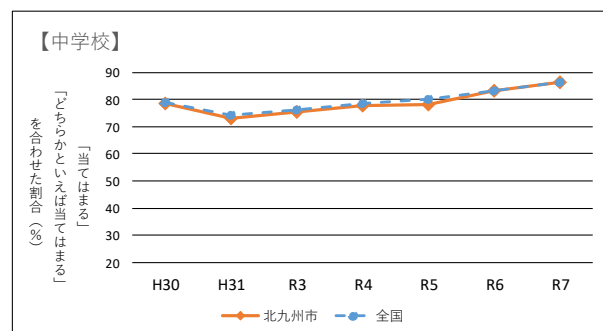
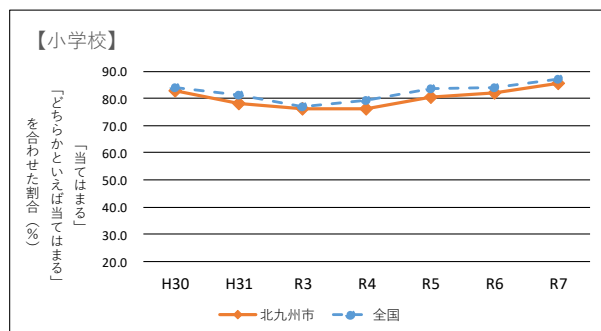
● 学校の授業以外の勉強時間については、全国平均と同様、本市も年々下降傾向にある。
→ AIドリルアプリの活用を進め、学習習慣の形成に向けた家庭と連携した取組を進める。

心の育ち

【質問】自分には、よいところがあると思う。

	H30	H31	R3	R4	R5	R6	R7
北九州市	82.7	78.0	76.1	76.3	80.3	81.9	85.4
全国	84.0	81.2	76.9	79.3	83.5	84.1	86.9

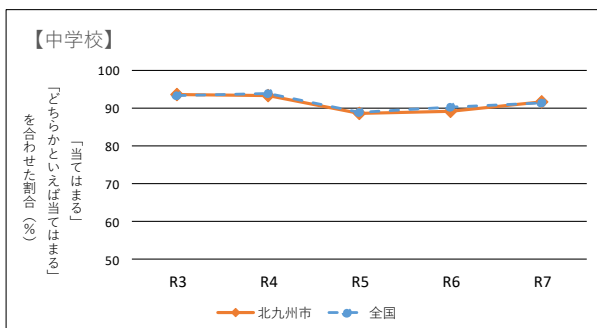
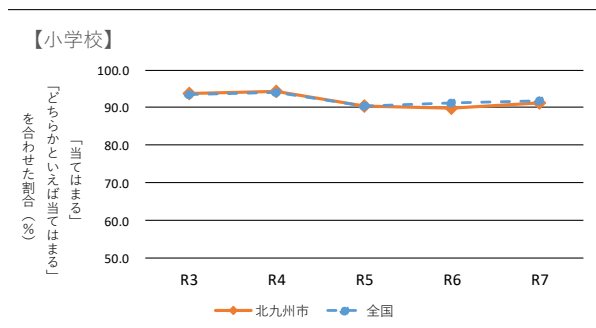
	H30	H31	R3	R4	R5	R6	R7
北九州市	78.4	72.9	75.3	77.8	78.1	83.2	86.2
全国	78.8	74.1	76.2	78.5	80.0	83.3	86.2



【質問】（R3～R4）友達と協力するのは楽しい。（R5～）友達関係に満足している。

	R3	R4	R5	R6	R7
北九州市	93.8	94.2	90.3	89.9	91.2
全国	93.4	94.0	90.3	91.1	91.7

	R3	R4	R5	R6	R7
北九州市	93.4	93.3	88.5	89.1	91.5
全国	93.2	93.7	88.7	90.1	91.4



○ 自尊感情に関する項目については増加傾向にある。
○ 友達関係に関する項目についても増加傾向にあり、中学校では全国平均を上回っている。
→ 人間関係づくりに取り組むとともに、子どもが安心して登校できる学校づくりに努めていく。

4 今後の取組



©ていたん&ブラックていたん、北九州市

「北九州市こどもまんなか教育プラン」＜ミッション3＞

誰一人取り残さない学びと、未来を見据えた先端的な学びを進める



多様なこどもの状況に応じた学びを進めるとともに、多様な他者と学び合う「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を進めることで、誰一人取り残さず、全てのこどもたちの可能性を引き出し、学齢期を経過した人も含め、学びの機会を保障する環境を整えます。

また、グローバル化やデジタル化が進展する、これからの新しい時代に対応するための学びや、義務教育9年間を見通した取組を進めます。

学力向上に向けた重点的取組

① 多様な子どもの深い学びを実現する授業改善

◆ 授業改善の支援

- ・リーディング校における公開授業や授業づくりに関する研修、学校訪問を通して、授業のモデルにふれる機会を創出する。
- ・指導主事や教科メンタリング教員による各校への授業参観や指導助言などの支援により、若年教員等への授業力の向上を図る。
- ・「学びの転換」に向けて、各学校が特色ある教育課程を推進できるように、学校への研修会等の充実を図る。

◆ 児童生徒の実態把握

- ・「全国学力・学習状況調査」「北九州学びと育ちアンケート」の実施・分析により、継続的に児童生徒の学力・学習状況の実態を把握する。
- ・「学力向上分析プロジェクト」において、学力・学習状況調査の結果を基に、各学校が自校の傾向（つまづきや誤答）の分析を行い、授業改善に生かすことができるように、校内ワークショップ型研修等を支援する。

◆ 体験活動の充実

- ・アラカルト方式による校外での活動や環境アクティブ・ラーニングなど体験的に学ぶ機会を充実していく。
- ・理工系人材育成事業等、多様な子どもの興味・関心に基づいた教育の場を幅広く提供する。

② 学習内容の確かな定着に向けたAIの活用

◆ AI型ドリルアプリの活用

- ・個に応じた課題別の学びを提供し、補充的な学習の確保を行うとともに、教員の負担軽減にもつなげていく。

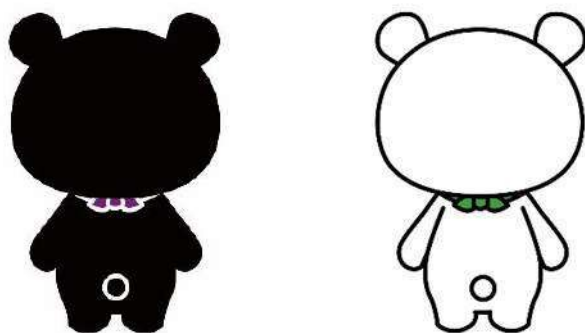
③ 語彙を増やし、読解力の基礎を養う読書の推進

◆ 学校全体における読書活動の推進

- ・10分間読書やすき間読書、国語科における並行読書など、読書をする時間の確保を行う。
- ・学級文庫を充実させたり、各学年の廊下におすすめの本を並べたりと児童生徒の身近な場所に本がある環境づくりを推進する。

◆ 音読暗唱ブック「ひまわり」の活用

- ・「ひまわり」に掲載されている文章を音読、暗唱する取組を行うことで、言葉への興味・関心を喚起し、読解力を支える語彙の拡充を推進する。



©ていたん&ブラックていたん、北九州市

令和7年度 全国学力・学習状況調査 報告書

発行 北九州市教育委員会 学校教育部
次世代教育推進課

〒803-8510

北九州市小倉北区大手町1番1号

TEL 093-582-3447

FAX 093-581-5873